

アフエレシスは、今から約 100 年前に両側腎摘を行ったイヌに血漿交換を行った報告に一つの端を発する。血漿を生理食塩水で置換したこと、治療量は不足していたことから長時間の生命維持にはつながらなかった。その後、透析技術の開発・発展があり、長期にわたる腎代替療法が可能となっている。このように、透析療法の端緒はアフエレシスにあるともいえる。本号ではアフエレシス療法について、透析室でかかわる疾患・病態を中心に解説いただいた。前半では総論として、オーバービュー、治療条件の設定、合併症について、後半では透析患者にみられることも多い、あるいは腎疾患と関連する疾患における意義を解説いただいた。膜分離、吸着、さらには遠心を用いて、いかに選択的に物質を除去、

あるいは補充するかという技術と、それを必要とする疾患・病態との適合を行っていくかが、アフエレシスが重視する点である。その結果、最小限のリスクで、最大の効果を得るために、普段われわれが行っている血液浄化療法の技術が活躍している。直接アフエレシス治療にかかわらないまでも、どのような技術があり、実際の疾患に対してどのように適応されているのか、さらにはそれが病態の改善、患者自身の QOL の向上などにつながるのか、本特集を通じて俯瞰的な視点をもっていただけるのではないかと考えている。奥行きと幅広さを兼ね備えた血液浄化療法の一端に触れていただければ幸いである。

(花房規男)

2024 年 (Vol. 40) 特集のご案内

- No.① 骨合併症 (骨折, アミロイド症を含む)
- No.② 血液透析患者の血圧を再考する
- No.③ “透析看護” 研究, 論文発表に繋げよう!
- No.④ 急性腎障害の最新トレンド
- No.⑤ 透析患者の心不全パンデミックに立ち向かう
- No.⑥ 学びなおし腹膜透析

- No.⑦ 腎臓リハビリテーション—理論と実際 [増刊号]
- No.⑧ チームで挑む透析患者のフットケア
- No.⑨ 高齢者施設で生活する透析患者の実態
- No.⑩ 透析医療を巡る臨床倫理の側面
- No.⑪ 透析室スタッフのコミュニケーション術
- No.⑫ いざ実践! 透析患者の栄養管理
- No.⑬ 透析室でかかわるアフエレシス

(既刊は○)

臨牀透析® Vol.40 No.13

© 2024 年 12 月 10 日発行

定価: 2,860 円

(本体 2,600 円 + 税 10%)

- ・ 2025 年 年間購読料 (増刊号含む 13 冊, 税込)
冊子版 39,050 円
電子版 (個人のみ) 39,050 円
冊子版 + 電子版 (個人のみ) 44,550 円
(詳しくはホームページをご覧ください)
- ・ 年間予約購読は前金にて書店あるいは弊社宛お申し込みください。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-64 神保町協和ビル

営業直通電話 (03) 3291-3901 (代) FAX (03) 3291-3904

編集直通電話 (03) 3291-3971 (代) FAX (03) 3291-3377

e-mail dialysis@nmckk.co.jp URL https://www.nmckk.jp

印刷所 シナノ印刷株式会社

・ Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2024, Printed in Japan

・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は (株) 日本メディカルセンターが保有します。

・ JCOPY < 出版者著作権管理機構 委託出版物 >

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構 (☎ 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

■ 広告申込所 / 株式会社 文栄社 〒 113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1 電話 (03) 3814-8541